

科目名	宗教史					単位	2.0
担当教員	菱木 政晴						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	4309

●授業のテーマ

近代日本宗教史の前提

●到達目標

抽象的に言うと、呪術・宗教と政治経済の流れを総合的に把握する視点を持てるようになること。

●学習内容(授業概要)

宗教学の前提としての宗教史学を学ぶ。まず、宗教学の発達史を学ぶことによって、宗教の歴史がどのように考えられるに到ったかを学習する。ついで、古代および中世の日本社会を例にとって、農業を中心とする社会における「経済」「政治」「宗教・呪術」の相互関係を学ぶ。それによって、宗教とその歴史を現実の社会の歴史との関係から考察する。

宗教は、単なる個人の内面のできごとではなく、人間のさまざまな社会活動のひとつである。宗教が社会の中でどのような役割を果たしてきたかを学ぶ。概して、その果たした役割は好ましいものではないが、それを学ぶことによって宗教に対する安全な態度を身につけることができるかもしれない。

●学習内容(授業計画)

1. 神社と仏教の区別がつかない。
2. 神社と寺院は違うか？おみくじ、お守りに注目。  
おまじないと宗教の違いはあるだろうか。
3. 宗教の起源を考えた人たち①  
タイラー、マレット、フレーザー  
フレーザーの言う「超自然的なものに対する畏敬と慰撫」とは何か。
4. 宗教の起源を考えた人たち②  
マリノフスキー  
近代宗教学史の帰結
5. 幣帛供進と幣帛班給  
①幣帛とは何か。供進物のシンボル。小さな生産単位では、すべての生産物は供進物とほぼ一致する。  
生産と生産物の管理運営（すなわち、経済と政治）と祭祀は未分化。
6. 幣帛供進と幣帛班給  
①幣帛供進とは、祭祀・農業経済・政治の一元的なあり方（母系制でも事足りる）  
②幣帛班給とは、幣帛供進の多重化による服属儀礼（戦争・支配を伴う→家父長制への転換）
7. 家父長制と戸籍  
\* 律令（班田收受）と幣帛班給の長短  
①律令税制の安定性 vs 幣帛班給の受け入れやすさ  
②律令税制の実施のための政治的（軍事的）困難  
③律令を厳かに補完するとは？僧尼令による年分度者の規定
8. 空海と最澄  
①密教の導入、  
②初期荘園制  
③後期荘園制と顕密仏教体制  
地方豪族は競って寺社に寄進する。

## 天皇と神道と仏教のコラボレーション

9. 武家勢力とはなにか。  
顕密仏教体制論、境内都市論
10. 興福寺奏状と、歎異抄後序・教行信証後序。
11. 神祇不拝・国王不礼。
12. 荘園制=顕密仏教体制を否定する論理。
13. 神道と国家神道
14. まとめ
15. 試験(小テスト)

### ●準備学習・事後学習の内容

特に必要ないが、とにかく論理的思考を磨くために、講義内容を覚えるのではなく、講義で提示されたデータを自分で吟味し、自分の論理を構築する練習をする。自分の論理を構築すること自体は、いかなる学習においても求められる。

### ●成績評価方法・基準

すべて、期末の筆記試験、または、レポートによる評価。

### ●テキスト（必携）

特になし

### ●参考文献／その他

菱木政晴『市民的自由の危機と宗教』（白澤社、2007年）が参考になるかもしれない。その他は授業時に指示。

### ●履修上の注意

特になし。